

しんごん

SHINGON

【特集】

お寺の行事に参加しよう③ 祈願の行事と年末年始

—護摩供、大般若会、除夜の鐘、星まつり—



Vol.
95
真言宗智山派

仏さまに祈り 仏さまと出会う

目次

- 今日の法語 小林照宏……………2
- 智山寺院探訪 大田山豊楽寺……………3
- 特集 お寺の行事に参加しよう③……………6
- お大師さまとご信仰 田村宗英……………10
- 教えは伝わる
一真言八相解説一 別所弘淳……………11
- 図解・仏教ガイド 「マンガでわかる十三仏③」
え・悟東あすか……………12
- ゆーけいの写仏をするよろこび
牧 有恵……………14
- 日本の四季を切り取る十七文字
星野高士……………15
- 総本山の便りをお知らせします……………16
- らせんのなかのブツダガヤ 中嶋亮順……………18
- ごくらくらくご 三遊亭竜楽……………19
- 御詠歌で綴る十善戒の教え
佐々木眞光……………20
- 読者アンケートから・おしらせ・編集後記……………22
- 真言宗智山派出版物のご案内……………23
- 桃山の息吹に触れる 安原成美……………24
- お大師さまカルタ 川崎一洗・三船毅志……………26
- 花に聞く 仏に聞く 佐々木隆元……………28
- 仏教と妖怪 今井秀和……………29
- 私のお大師さま
ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko 内藤理恵子……………30
- ご本尊さまと出会う 小笠原隆浩……………31

仏教について	仏教と文化
わたしたちの生活と仏教	お知らせ

表紙 「新名庄川と富士山」 山梨県忍野村

2月上旬、夜の天気予報で関東地方に雪の予報が出たので、忍野村へ向かった。翌朝、晴れてはいたが富士山は見えず、そのうちに桜並木の枝に積もった雪が風で散り始めた。忍草浅間神社付近の新名庄川に架かる「お宮橋」の上に立ってスタンバイしていたが、富士山が顔を見せたのは9時少し前。慎重に土手を下り、川の中から撮影した。

表2 「稲わら干しと富士山」 山梨県忍野村

忍野村には、富士の伏流水が湧き出る「忍野八海」があり、外国人観光客で連日ごった返している。その伏流水が流れる桂川の脇には観光用に稲わらやトウモロコシが干されていて、インスタ映えする人気撮影スポットになっていた。この日も雪を纏った富士山が稲わらに抱かれて真っ青な空に聳えていた。まさに日本の象徴的風景だ。

撮影・解説/山梨勝弘



言葉の力

今日の法語「言葉の力」

小林照宏（長野県岡谷市・真福寺）

言葉には力が宿っています。
言葉は届いた心に働きます。
ひと言が人を勇気づけ救い、ひと言が人を傷つけ迷わす。
自分の感情を離れ、相手を思いやる言葉であれば、
きつと人を磨くことができます。
言葉は人を創ります。
不満の言葉で満たすなら、物事を咀嚼して価値を見出し、
前向きで喜びのある言葉を生む方が良い。
多くのお陰に気づくことが、きつと人を豊かにします。
いつでも心に蘇るあの人の言葉。
言葉には、生きる力が宿っています。



豊楽寺薬師堂。仁平元年（1151）に建立され、四国でも最も古い木造建築。高知県の建造物で唯一の国宝である。

日本三薬師第一之霊場



智山寺院探訪

高知県大豊町 大田山 豊楽寺

四国といえは八十八ヶ所霊場を思い浮かべる方も多いでしょう。しかし、札所の多い海沿いから山の奥へと分け入ったところにも訪れたい寺院があります。よさこい節の歌詞にもある「坊さんかんどし買うを見た」という高知のはりまや橋から、車で一時間もかからずに着くのが今回訪れた豊楽寺です。

高知唯一の国宝建造物、薬師堂

仁平元年（一一五二）に建立された豊楽寺薬師堂は四国で最も古い木造建築であり、建造物では、高知県唯一の国宝です。ご住職が「翼を広げた鳳凰のようだ」と形容するように、大きく反りのついたけら葺きの屋根はなんとも優美な姿をしています。お堂の大きさは五間四面と決して大きなお堂ではありませんが、山の木々と調和した儼かな存在感があり、見るものを圧倒します。柱は槍鉋によって削り出されたため細かな凹凸があり、手で触れると当時の職人の息遣いが聞こえてくるようです。

平安の面影残すご本尊

お堂正面の格子窓から差し込む光が、

薄闇のなかに佇む如来像をやわらかく照らしています。中央には手に薬壺を持った姿の薬師如来が座し、両脇に日光菩薩と月光菩薩が並び立っています。その左側に弥陀定印を結んだ阿弥陀如来が、右側に釈迦如来が座しています。三尊のお顔立ちを見比べてみると、この釈迦如来だけ首が短くふつくとした顔つきをしています。その訳を聞いてみると、

この釈迦如来はもともと薬師如来で、薬師堂のご本尊さまだったそうです。後になって現在の薬師如来と阿弥陀如来が造られた際に、左手の薬壺をとり釈迦如来へと造り変えたのだといえます。そのため、造られた時代の違いから顔つきが違うのです。この釈迦如来の胎内にあつた墨書から、仁平元年に造願されたことが判明し、ご本尊さまをお祀りする薬師堂が、国宝の指定を受けました。いずれも平安後期に造られたこの三尊の座像と、脇侍の日光・月光二菩薩は、ともに国の重要文化財に指定されています。

如来のおわす山

豊楽寺は神亀元年（七二四）、奈良時代の僧、行基によって開創されます。聖武天皇の勅願によって諸国を行脚していた行基は、道すがら後に豊楽寺ができる大田山に立ち寄りました。すると、山の上で如来の姿を感じ

取ったといひます。そこで「一刀三礼をもつて、自ら薬師如来の像を刻み、一字を建立しました。これにいたく感激した聖武天皇によって、『薬師経』の「薬師如来の名号（お名前）を耳にすれば、その身から病が去って安樂になり、家族は皆悉く豊かになる」という一節から豊樂寺と名付けられたといひます。

長宗我部氏の総祈願所として

開創以来、多くの信仰を集めてきた薬師如来の靈験を示す話が今に伝わっています。戦国大名である長宗我部元親は、四国を平定するために豊樂寺のある大豊地方の豪族と争っていました。豊樂寺を戦の拠点とされることを恐れた元親は、薬師堂の西の隅に

火をつけます。すると、不思議なことに元親の体を痺れが襲い、動けなくなってしまう。火は薬師堂を燃やすことなく自然と消え、それと同時に痺れも治まりました。これに大いに威徳を感じた元親によって長

宗我部氏の総祈願所となった豊樂寺は、増々発展していくのです。往時には参道に大門を構え、蓮華院や極樂寺といった多くの塔頭寺院（寺院内の小院）を抱えていました。

隆盛を誇った豊樂寺ですが、明治の廃仏毀釈によって大きな被害を受けます。高知は廃仏毀釈が特に激しく、多くの伽藍が取り壊されました。豊樂寺も例にもれず、大門や塔頭寺院が灰燼に帰し、ことごとく廃寺となりました。しかし豊樂寺薬師堂は人々の請願によって取り壊しを免れ、高知で唯一の、国宝建造物となるのです。

日本三大薬師「柴折薬師」

奥から阿弥陀如来、薬師如来、釈迦如来。いずれの三尊ともヒノキの一本造りに見合った重厚感があり、そのお姿は訪れた人を包み込むような安心感を与える。

豊樂寺は別名「柴折薬師」とも呼ばれ、日本三薬師第一之靈場に数えられます。この柴折薬師の名は、いまでも旧暦七月六日（平成三十年は、八月十六日）に行われている薬師大祭に由来します。柴折とは敷物にするために枝を折ることを指します。江戸の頃、大祭の前夜から三日間は、男女で問答が行われていました。その問答をする際に折った柴を敷物としており、問答に負けると相手のいうことを何でも聞かなければならなかったそうです。そんなことから男女の縁結びの薬師ともいわれています。大祭に詣でる人



精悍な顔立ちの薬師如来（左）と優しい顔立ちの釈迦如来（右）。本来のご本尊さまであった右側の釈迦如来の方が造られた時代が古く、素朴なお顔立ちをしている。



が大変多く、向かいの山から豊楽寺を見ると、蟻が行列をなしているようだったそう



普段は非公開の国重要文化財天部立像。見上げると、力強いお姿で迫ってくる。



昔から多くの人々が歩いてきた表参道。苔むした階段が積み重ねられた時間を物語る。

す。大祭のある三日間は参道、境内に所狭しと出店や見世物小屋が建ち並び、夜でも明かりが煌々と灯り、さながら不夜城のようであったと伝わっています。

規模こそ当時には及びませんが、いまでも続くこの薬師大祭に往時の興隆を偲ぶことができます。豊楽寺では薬師大祭だけではなく、花祭りや節分など、地域の人々の祈りの場となる行事が行われています。

吉岡寛順よしかんじゅんご住職は「時代が変わり人々の娯楽が増えたためか、豊楽寺を訪れる人は昔ほど多くはありません。しかし、高知県唯一の国宝である薬師堂や、住職の私ですら手を合わせるたびに感動を覚える如来さまたちがいらっしやいます。ぜひとも多くの方に知っていただき、多くの人々に訪れていただきたい」と、土佐訛りのある優しい口調で思いを語ってくださいました。

確かに訪れるには険しい難所かもしれませんが、土佐の渓谷を分け入り、山林の中に佇む薬師堂を参拝した時の感動は、筆舌に尽くしがたいものがあるでしょう。数日前までに電話予約していただければ国宝の薬師堂内を参拝することもできますので、ぜひ豊楽寺まで足を伸ばしていただきたいものです。

(智山教化センター所員／中嶋亮順 撮影／村中修)

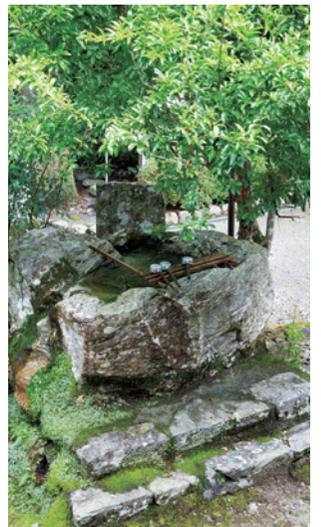


ACCESS アクセス
大田山 大願院 豊楽寺
〒789-0234 高知県長岡郡大豊町寺内314
TEL0887-73-0029 FAX0887-73-1606
高知自動車道、大豊I.C.より車で20分
JR土讃線 大田口駅下車 徒歩30分
JR土讃線 大杉駅下車 タクシーで15分



吉岡寛順ご住職。平成29年11月にご住職に就任したばかりだが、民泊の制度を使って中学生に田舎暮らしを体験させたり、先の西日本豪雨の被害者を受け入れるなど、精力的な活動もしている。

山の麓の吉野川から「お薬師さまのために」と、人々の手によって三年かけて引き上げられた手水鉢。





お正月になると、各地の寺社仏閣は初詣の方々で大変な賑いをみせます。真言宗智山派のお寺でも成田山新勝寺や川崎大師平間寺は、全国の初詣の参拝者数ランキングで毎年上位に入り、三ヶ日の参拝者数はどちらも三百万人を超えるそうです。写真提供／大本山成田山新勝寺

特集

お寺の行事に参加しよう③ 祈願の行事と年末年始

—護摩供、大般若会、除夜の鐘、星まつり—

平成三十一年が幕を開けました。五月には平成から新たな元号に変わります。新たな時代の始まりに、格別の心持ちで初詣に参拝された方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。初詣には多くの方々が寺社に参拝し、手を合わせて一心にご祈願される姿が見られます。何かと忙しい現代ではありますが、家族そろって一年の初めに行くことが「神仏に手を合わせて祈願」することであるのは、とても尊いことです。

真言宗のお寺には、人々の祈りや願いにお応えするさまざまな行事や法要があります。今回は特に年末年始に行われる祈願の行事についてご紹介したいと思います。

【除夜の鐘】

大晦日。つい先週末であちこちで見られた煌びやかなクリスマススムードも一転、家々には飾り縄や門松が置かれ、街はすっかり和の装いです。夜が深まるにつれ周囲はにわかに静まり、年の過ぎゆく寂しさと、迎える年への希望が緋い交ぜになった独特な雰囲気を感じています。深夜零時が近づくと遠くに聞こえる除夜の鐘……その音はとても澄んでいて、すっと心に響きます。

大晦日は古き年を除き去り、新年を迎える日という意味から「除日」とよばれ、その夜



人間の迷いを生み出す煩惱ぼんのうは百八あるといわれます。除夜の鐘が百八回撞かれるのも、私たちの煩惱を除き、清らかな心で新しい年を迎える意味があるのです。

のことを「除夜」といいました。除夜は厳密には大晦日の深夜から、元日の日の出までの時間をさし、新年の挨拶に「明けましておめでとう」というのも、本来は除夜が明けてからの言葉なのだそうです。

除夜の鐘には、その音を聞く者を迷いの世界から目覚めさせ、悟りの世界に至らしめる意味があるともいわれます。深夜零時を前

に、除夜の鐘を参拝者に撞ついていただけるようにご案内されて
いるお寺もあります。ぜひ除夜の鐘を撞ついて
旧年の悩みや迷いを払い、清々しい心で新年
をお迎えください。

【護摩ごま供まげ】

年始につとめられる法要は「正月がっしげつに修行しぎょうす
る」ということから、広く「修正しゆじゆえ会」とよば



護摩ごまの炎は仏さまそのもの。護摩札ごまざとよばれる祈願札かじを仏さまのお力が宿るように炎にかざします。仏さまのお力を頂戴することを加持かじといいます。加持された護摩札をいただいた際には、お札そのものを**ご本尊**さまと感じていただき、大切にお祀りください。

れますが、真言宗や天台宗などの密教を伝える多くのお寺では、修正会に際して護摩供をつとめるお寺が多くあります。

護摩はインドの言葉で、「供物を捧たさげること」を意味する homa (ホーマ) が音写されたものです。護摩供をつとめる導師は真言を唱えつつ、一連の作法をとおして、ご本尊さまを護摩壇の炎の中へとお招きします。このとき護摩壇の炎は単なる炎ではなく、仏さまそのものとなります。護摩供ではさまざま



お供物が炎の中に投げられますが、これは仏さまに直接お供物を捧げることの意味しです。仏さまはこの供養の心にお応えし、たくさんのご利益をお授けくださることから、護摩供は功德甚大であり、それ故、所願成就の秘法とされるのです。

また、護摩供で焚かれる護摩木は私たちの煩惱を象徴しており、護摩の一座の中には、仏

別院真福寺大般若会の様子。大般若会にはご本尊さまとして、仏法を守護する十六善神がお釈迦さまを囲むように描かれた掛軸が掲げられます。十六善神のご加護をいただきに、ぜひともご参拝ください。毎年新春大護摩供法要（平成31年は1月8日）にて開催されます。

さまの炎によって私たちの煩惱が焼き尽くされる意味も込められています。私たちの願いも煩惱に染まらない清らかなものであればこそ、きつと仏さまは応えてくださるのでしよう。

護摩供は、皆さまの願いが込められた護摩札を授かるだけでなく、目の前で焚かれる護摩供の清浄な炎の功德をいただくことによつて、さらにその意義が増します。新たな年の幕開けに迫力ある炎による護摩供に参拝してはいかがでしょう

【大般若会】

年始には護摩供だけでなく大般若会を行う寺院もあります。中国の物語『西遊記』にも登場する三蔵法師玄奘（六〇二―六六四）は実在の人物で、その玄奘三蔵がインドから中国に持ち帰り、四年の歳月をかけて翻訳した全六百巻からなる『大般若経』を転読する法会が大般若会です。

「般若」は古代インドの言葉で「さとり智慧」を意味する prajña（プラジュニヤ）の音写ですから、般若経はさとり智慧を説く、たいへん功德の大きい經典として信仰されてき

ました。『大般若経』には、「この経を誦する者のために、仏法を守護する神々があらゆる災厄からお守りくださる」と説かれています。このことから、大般若会は奈良時代に天皇が国家安寧を祈る法要としてつとめられて以降、盛んに行われるようになりました。

法要では六百巻の経本すべてを「転読」という作法でお唱えしていきます。転読の作法は、経題をお唱えしながら、折本仕立ての経本の初め・中間・末尾の数行を開きつつ、最後に大きく開いてバラバラと音を立てて経本を閉じていきます。法要に列座する僧侶は經机に積まれた経本一冊一冊を手に取り経題を声高らかに唱えあげて転読し、魔を退ける願いを込めて経本を机に置くのです。転読の際に経本から生じる風は「般若の梵風」とよばれ、この風にも大きなご利益があるといわれます。般若の梵風を全身にお受けして、十六善神の加護をいただけるようお願いいたします。

【星まつり】

「星に願いを」と聞くと何ともロマンチックですが、人の運勢を司るとされる星々を供養する法要が星まつりです。年末年始だけでなく、二月三日の節分などにも勤められます。これは一年間の人の運勢を司るとされる

「当年星」とよばれる星が交替するのが春節分だからです。

当年星は日曜星・月曜星・火曜星・水曜星・木曜星・金曜星・土曜星の七つの星に、古代インドにおいて日蝕や月蝕を引き起こすとされた計都星と羅喉星の二つを加えて九曜星とよばれます。この九つの星のいずれかが、人それぞれの当年星として毎年変わり、一年の運勢を左右することから、これらの星々にお供物を捧げたり、護摩供などをつとめてご供養し、災いを避けるように祈るので

す。

星まつりでは星曼荼羅というご本尊が掛けられますが、星曼荼羅には九曜星のそれぞれが神さまのお姿で描かれています。九曜星だけでなく、北斗七星や十二星座、日ごとの運勢を司る二十八宿とよばれる星々も神さまの姿で描かれており、夜空に輝く星々がいつも私たちを見守ってくださいているようです。運勢の善し悪しは誰しも気になるもの。心をこめて星々に供養を捧げ、一年間の吉祥を祈りたいものです。

ここに紹介した祈願の行事の他にも、お寺には多くの行事があります。仏さまに祈りを捧げるたびに、私たちの心は迷いから離れ、安らかになっていきます。ぜひともお寺の行事に参加され、より一層、仏さまとご縁を深めていただきたいと思います。

(智山教化センター所員／伊藤尚徳)



星曼荼羅には夜空の星々が神さまのお姿で描かれています。天高く私たちを見守るように輝く星々を神さまとして信仰するのは世界共通です。自分の当年星が今年どれに当たるかは『智山御寶曆』の「九曜星早練表」(下図)ですぐにお調べいただくことができます。 星曼荼羅(北斗曼荼羅)／智積院蔵

○	◐	●	●	○	◐	○	◐	●
木曜星	月曜星	計都星	火曜星	日曜星	金曜星	水曜星	土曜星	羅喉星
吉運	進運	滞運	休運	盛運	平運	喜運	開運	潜運
七赤	六白	五黄	四緑	三碧	二黒	一白	九紫	八白
御真言 シラソワカ	御真言 ソワカ	御真言 シリソワカ	御真言 アキヤラキヤ シリソワカ	御真言 オンシソワカ	御真言 シリソワカ	御真言 ソワカ	御真言 オンシヤニシ イシリソワカ	御真言 ソワカ
平生 23 生れ	平生 24 生れ	平生 25 生れ	平生 26 生れ	平生 27 生れ	平生 28 生れ	平生 29 生れ	平生 30 生れ	平生 31 生れ
平 14 昭 5 昭 59 昭 50 昭 41 昭 32 昭 23 昭 14 昭 5 昭 10 昭 1 大 1	平 15 昭 6 昭 60 昭 51 昭 42 昭 33 昭 24 昭 15 昭 6 昭 11 昭 2 大 2	平 16 昭 7 昭 61 昭 52 昭 43 昭 34 昭 25 昭 16 昭 7 昭 12 昭 3 大 3	平 17 昭 8 昭 62 昭 53 昭 44 昭 35 昭 26 昭 17 昭 8 昭 13 昭 4 大 4	平 18 昭 9 昭 63 昭 54 昭 45 昭 36 昭 27 昭 18 昭 9 昭 14 昭 5 大 5	平 19 昭 10 昭 64 昭 55 昭 46 昭 37 昭 28 昭 19 昭 10 昭 1 昭 6 大 6	平 20 昭 11 昭 65 昭 56 昭 47 昭 38 昭 29 昭 20 昭 11 昭 2 昭 7 大 7	平 21 昭 12 昭 66 昭 57 昭 48 昭 39 昭 30 昭 21 昭 12 昭 3 昭 8 大 8	平 22 昭 13 昭 67 昭 58 昭 49 昭 40 昭 31 昭 22 昭 13 昭 4 昭 9 大 9

平成三十一年九曜星早練表

(生まれ年のご真言をお唱えして身をつつしみ幸運を得てください)

※平成三十一年智山御寶曆より抜粋

平成31年カレンダー発行のお知らせ

平成31年のカレンダーを2種類
ご用意いたしました。
ぜひご利用ください。
(各1部100円 お問い合わせはP.23出版係まで)



柱かけカレンダー
「今月の法語」

「日ごろの暮らしに表れる法語」を集め、月ごとに季節を感じられるような日本の伝統文様をあしらった月めくりカレンダー。お部屋の柱などにかけてお使いください。

ポスター
カレンダー(B2版)
「四大明王像」

智積院明王殿にお祀りされている「四大明王像」のお姿を使用して作製した、迫力ある表情を写したカレンダー。



京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

写経のじゆい

毎月21日 13時より

於 金堂

納経料 千円

智積院阿字観会

毎月12日 14時より(受付13時より)

※8月と12月は8日 14時より

於 智積院金堂地下ホール

(参加灯明料五百円・要事前申込)

宿坊 智積院会館は新築工事のため、平成30年12月13日(木)より宿泊利用並びに会館利用を休止いたします。これまでに以上にご快適にご利用いただける宿坊となるように準備を進めております。工事中はご不便をおかけいたしますが、あらかじめご了承ください。新しい智積院会館は、2020年春頃の開業を予定しております。

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師(縁日)(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日

12月7日(金)

1月8日(火)

※新春大護摩供法要 11時30分より

2月8日(金)

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭千五百円)

12月20日 談志一門会

1月17日 談志一門会

2月21日 三遊亭

真福寺阿字観会

昼の部15時・夜の部18時より

於 本堂(無料・要事前申込)

1月29日(火)

2月19日(火)

総本山智積院HP

<http://www.chisan.or.jp/>



Facebook



智積院

検索